



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

虹が見たいなら 雨が降らなければ

春先は気温のとても変わりやすい季節です。寒いと思つて厚着をすると汗をかき、暑いと思つて薄着をすると、風が冷たく足元が冷える。そのため、体調を崩してしまわれる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。先日も朝は快晴だったのに、夕刻には土砂降りの雨。それもカミナリつきで驚きました。けれども、その雨が上がると、東の空に大きな虹が架かっています。お気づきになりましたか？その虹を見て、心が軽くなったような不思議な気持ちになりました。自然の力は大きいものですね。

そんな時思い起こされたのが右の表題の言葉です。様々な解釈の仕方はあると思いますが、私は応援してくれているように感じています。何か新しいことに挑戦してみよう。今が辛くても、もう少し結果が見えるまで継続してみよう。そんな、前向きな気持ちにさせてくれる言葉だと思つています。

皆さんもこの春、何か新しいことにチャレンジしてみませんか？大きく綺麗な虹が眼下いっぱいに見えるかもしれません。見えると良いですね。

看護部新人紹介

発刊：
済生会今治病院
透析センター

代表：
透析センター長
大本 昌樹

患者数：
238名 (4/14 現在)



1年ぶりに透析室に戻ってきました。病棟では苦勞もりましたが、貴重な体験、勉強をさせて貰いました。その経験を皆様の看護に役立てるよう頑張りますので宜しくお願いします。



4月より集中治療室より透析室に配属されました。今は透析室の業務に慣れるため、頑張っているところです。患者様の安全安楽な透析看護が提供できるように日々努力していきます。



長い間ありがとうございました。
3月31日付で定年退職いたしました。お知らせもせず去ったことをお詫びいたします。
昭和50年に済生会に入職し、以後42年間透析に関わってきました。思い返すと当時の透析は今とは比べ物にならないほど稚拙で、患者様には大変なご苦勞をおかけしてしまいました。

今までありがとうございました!

貧血は仕方がない、除水誤差は当たりまえ、ヘマトクリットが16%を切ったので輸血しましょう、ベテラン患者様は首を握り除水出来た、いやもう少しなどと会話をしたことを思い出します。シャントは患者様の命と同じと山田医師から学びました。

2千人近くの患者様にお会いしました。未熟な私にとって皆様が体調の変化や多大な制約の中、生活を営み、精いっぱい生きていく姿に接し、多くの事を学びました。無口な人、多弁な人、考えが違っても時間をかければ理解し合える、信頼も不信も自分の責任だと感じました。皆様と長くお付き合いできたお陰です。私にとって人生の師に他なりません。スタッフの皆様、週3回欠かさず来られる方は、患者ではなく、社会や地域・家庭で役目を果たしている個人であることを忘れないでください。

最後に、皆様の恙ないご生活と、更なるご負担の軽減をお祈りし止みません。

芥川 真二



お世話になりました

皆さんこんにちは、栄養士の竹原(室津)です。

2015年12月に透析センターに配属されて、2年4ヶ月と短い期間でしたが大変お世話になり、有難うございました。栄養指導と体液量測定を通して、透析患者の皆さんのQOL(生活の質)の向上のお手伝いが出来ればと、透析中にちょこちょこ、お邪魔させていただいておりました。また8月には患者会の調理実習にも参加させて頂き、とても楽しい時間を過ごすことも出来ました。役員の皆さんには材料の調達や搬送、会場の準備や後片付けなど大変お世話になりました。

この2年間を通して特に問題点として感じたのは、下肢の筋肉量の減少と転倒骨折、そして体調を崩された時のダメージが通常の方より大きい事でした。普段から食事が少なく栄養状態の悪い方や透析期間の長い方、そして糖尿病から腎臓を悪くされた方では、特にそういう傾向が強いように思いました。

近年、糖尿病腎症から透析導入が必要となった方が全国的にも大変増えており、この透析センターでも同様に半数程度の方が糖尿病をお持ちでした。透析を導入してもその他の合併症予防のため、血糖コントロールをする事で網膜症やその他の血管障害などの合併症の進展を防ぐことは必須です。元気で透析に通っていただくためには、自宅での栄養管理が大切と強く感じました。

大変短い期間でしたが、とても楽しい2年間でしたし、良い勉強をさせていただきました。どうも有難うございました。感謝の気持ちでいっぱいです。これからもどうかお身体に気を付けて、元気で過ごして下さい。

臨床工学部を任せられることになって



臨床工学部技士長 田邊芳郎



芥川技士長が3月を以て定年退職されました。透析業務を中心として、40年を超える歳月を済生会今治病院で過ごされました。これまで何名の透析患者様と接してこられたのでしょうか？大変なご苦労もあつたかと思えます。本当にお疲れ様でした。そして、平成29年度より、私田邊が臨床工学部を任せられることとなりました。

現在の臨床工学部は、透析業務のみならず、心臓血管外科(人工心肺装置の操作など)、循環器科(心臓カテーテル・ペースメーカーなど)、内視鏡(胃カメラなど)、手術室(手術機器の管理・操作など)、医療機器管理(院内の医療機器の管理)と業務が増えています。しかし、臨床工学部のほとんどが透析業務を兼任しております。芥川技士長の信念でもありました「安全な透析治療の提供」を維持するべく、臨床工学部一同、先生方、看護師さん、助手さんと協力して頑張っていますので、何卒よろしく願います。

4月より技士の数も2名増えて15名となりました。経験不足の技士が多いのが現状ですが、透析患者皆様には温かく成長を見守って頂きますよう、よろしく願います。

平成二八年度看護研究メンバーより

春爛漫の美しい季節になりました。皆様、体調にはお変わりありませんか？

平成28年度は、お忙しい中、災害に対するアンケートやコミュニケーションにご協力いただき誠にありがとうございました。皆様からいただいた貴重な意見、結果をまとめ3月上旬に無事に院内での取り組みについて研究発表を行う事ができました。心より感謝申し上げます。

今後も透析センターとして皆様のご期待に沿うことが出来るよう、日々の看護、災害対策に取り組んでまいります。引き続きご協力よろしく願います。

平成二九年度看護研究メンバーより

前年度に引き続き、今年度も災害関連のアンケートを実施させて頂きたいと考えております。

皆様にはご面倒をおかけすると思いますが、ご協力よろしく願います。万が一、避難しなければいけないような事例が発生する前に、検討課題を数値化し明確にしたいと思っています。個人情報保護の配慮にも配慮してまいりますので、今後配布予定のアンケートを読んで、ご検討頂きますようお願い致します。

